

オシラサマ馬頭琴の旅物語

～音楽会&スライドトーク～

2015 10/23 (金)

開場 19時、開演 19時30分

※当日は19時まで画廊で『大黒浩子展 懐かしい日常』を開催中です

【料金】 予約 2000円、当日 2500円

・モンゴルミルクティー（スーテイ・ツアイ）付き

【予約】 なるべくメールでお申し込み

お名前、人数、連絡先電話番号をお知らせください。

okamoo+oshirasama@gmail.com

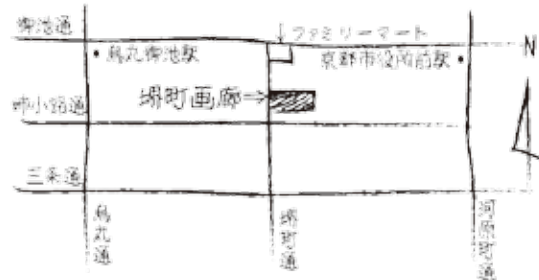
電話 075(213)3636 (堺町画廊)



【会場】 堺町画廊

京都市中京区堺町通御池下る

- ・地下鉄烏丸御池駅から徒歩5分または
- ・地下鉄京都市役所前駅から徒歩5分
- ・ファミリーマートの角を南へ50m



嵯峨 治彦 (さがはるひこ) 馬頭琴・喉歌

馬頭琴と喉歌の演奏を中心に伝統と革新の間を柔軟に行き来しつつ幅広い音楽活動を国内外で続ける。モンゴルを含むアジア中央部の伝統音楽を新たな伝来文化としてとらえ、独自の表現を追求している。

日本初の喉歌デュオ「タルバガン」を、大阪のフーメイ(トゥバ喉歌)演奏家、等々力政彦と共に結成。

2001年、ゴビ在住の遊牧民馬頭琴奏者ヨンドン・ネルグイ(モンゴル国人間文化財・第一文化功労者)から後継指名される。

民族音楽、邦楽、ポップス、クラシック、舞踊など、様々なジャンルのアーティストと共演を重ねる。

1971年青森県生まれ。岩手県育ち。89年から北海道に暮らす。

オシラサマ馬頭琴の演奏会について

この演奏会のきっかけは、エスキ馬頭琴、五体投地人形(からくり)電動マニ車...などなどラディカルでユニカルな立体作品を手掛けてきた京都在住の彫刻家岡本康児が、去年9月、最小限の手工具とキャンプ道具一式を背負って一路東北へ向かい、岩手県の遠野を経由し北上山地の主峰、早池峰山の麓タイマグラに籠もって新作「オシラサマ馬頭琴」の製作に入ったことに遡る。

「オシラサマ」は東北地方の民間信仰の神様で、馬と娘の悲恋にまつわるオシラサマ誕生譚は「遠野物語」にも記されている。一方「馬頭琴」はモンゴルの伝統楽器で、遊牧民の少年が愛馬の死を悼んでこの楽器を作ったという民話「スーホの白い馬」の絵本でも馴染み深い。「オシラサマ馬頭琴」プロジェクトは、これらの物語の中に見いだせる「馬」、「死」、「夢枕」、「再生」という共通点に着想を得て始まった。

「オシラサマ馬頭琴」の材料は最先で得た地元産の桑の木、馬皮、馬尾毛、生漆、蚕繭などで、中には彼の地でさえ現在は入手が困難なものもある。ところが、遠野に着いた日から不思議な出逢いがぞっとするようなタイミングで重なり続け、材料はどんどん集まってくる。まるでオシラサマの霊力に導かれるように…。約1ヶ月後、楽器は出来上がった。そして、その製作過程も人と材料との奇跡的な出会いの連続だった…。

本イベントでは「オシラサマ馬頭琴」の生演奏とともに、楽器誕生の物語も作者が旅の途中で撮りためた写真によるスライドトークでお楽しみください。

岡本康児 (おかもとこうじ) 作者・スライドトーク

1951年京都市生まれ。京都市在住。かつて米国、北海道に暮らしアジア各地を放浪。